

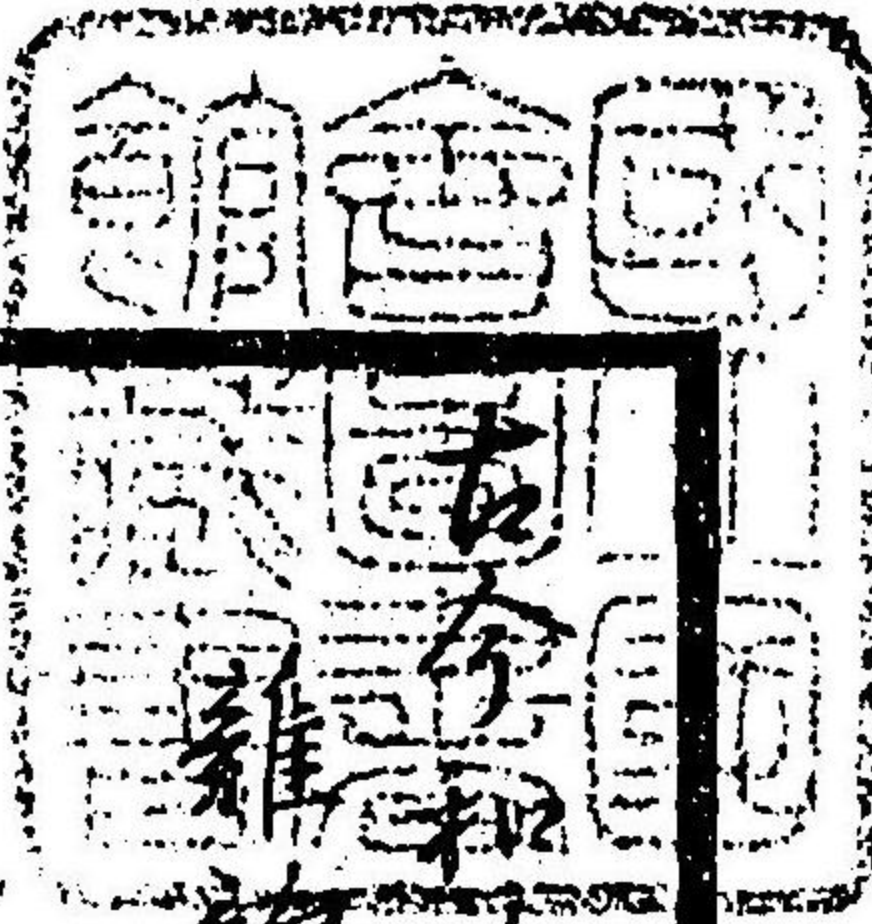
古今圖書集成

卷六

911.1351

M893k

k



古今和歌集卷第十七巻後
雑歌上

歌上

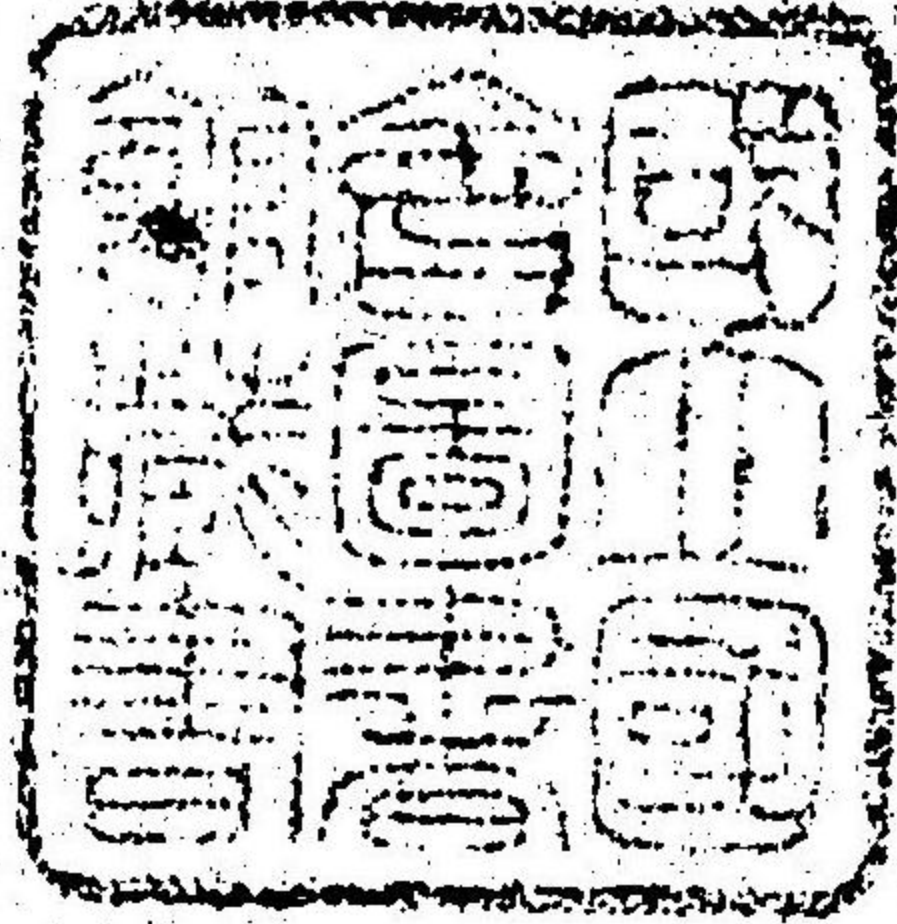
古今和歌集



ワシガウヘ、コレヲカラアガフツタルワ
コレハオテモ天ノ川ノ後ニ
船ノカイノキテアロカイ

○カウ心ノアフタドウシウチヨツテ居ルハ
オホイモノデサゴザルワイ

カウ心ノアフタドウシウチヨツテ居ルハ



112444

なふはげのちやみなのしししづなをぬいづく時ふたづつあまの

○ハアレホガミチケ名サウチ 雑波ノ 三 夕こく嶋ニ鶴ガトヒサワイデモツ

勢よくかいつこのあよゆるるゆふやましくよりこえさうで
きてよみてつるきき 春東のあけ

考返思ひおきみのほふさくづのあよこもいづらいたがきく

○拙者ハキ根ヲ良フテ志ゾニげとニテ 三 あり子テ糸ツタレバコノ 五
うナトニ一ナリトモサレキ根ノ方カラトテハ一向ハ夜子モトサレヌ
サテクキツイオカシカギリデズル

加 一 一

おきりのほたけのほねのあふくまくとまのほつと

○一 アノ言作淡ノ松ソノ松ト云名ノをリニサ 拙者ハトウカラ平根ヲ出待ヤツ
なふなふさうわりのきつ時よあ

雑波のあつと玉露をかりまのあましく我のあつとあ

○雑波ガタノ風景サテク面白サニニバラシハカニ運ぬニテ あり
玉露ヲ菊ルゆ士ニサオレハナラウヤウニ思ハル

あひをねるる人のほふゆくとにまみ
はるはーま

ほそくしつらいつくもぬのまなまれ茶あまのあり

○住吉ヘコサツテモシノコノゆ士ハ佳ヨイホデゴザルトニテキカス凡 必也居ハ
ニサツニヤルナヤ住吉ハ在而ノ人ヲ志ルト云志草ガエテアムトキヤホトニ

テモ白ギウニルアノ白イ雲下見テ六昔カラ居ルはノありテサゴザルワイ

田村の清めふ女をうねるがしひあては屏風のを
けりんーりふはあちほりりーとさうり
これぞおとこさあまこさうりぬふあちせ
けきばよみぬ 三條の町

思ひきくめうちのたまさるをうしひんさねをさるよすぬ

○入魚トヲエテ居テ居リスルは内はウラキカリスル物デゴザリスルガ
け給ハハサウノ内ノ成ギカ成ニテ落トハスエスド子カラ音がす
屏風のほろろ花とあまー ーいゆい
嘆きりーめりぬららそそそままぬをまゆらうのあま

○嘆ツメ夕時カラシテハウキツビイテ世中ハイツクモ春チヤカシテ此花ハ
色ガジヤウチウオナシトチヤ

屏風のをりーよも命をさしかさき
ねよこあひのい

かきてほろとや田のりねはふんぬてねまーをほも秋のうきれバ
○オレハ秋ガツライニヨツテ 一二 けヤウニヒクト後ヲ流シテ泣テサクラ
スワイ かりてふ雁とこをさーたのほろとさる

古今和歌集卷第十八巻鏡

雜歌下

形も〜び

よみ人〜らん

世中ハカフ小うつひさし〜

○世中デハ何カイツモカラヌ相ヤヅア...

取ガサ 今自ハモウ浅イ瀬...

くす〜もわじ〜

○モウ生テ居ルアヒダモ...

ナゼニオレニア此ヤウニ...

カノるナレヤ ドウデモ...

厚代〜る家の船方ともびの〜

○二三 びハレルモナニ常佳...

小やた〜の船方

き〜ら〜と〜

○サウチヤトエテノガレ...

世中ヤトエテナゲカル

かひの〜に〜

は〜〜

〜

〜

よふゆきとくさくさすきれみうゝぬ雪のゆきをふりしてむ

○世るニカウシテ居バ 次カニウイツライムバカリニテクルニ一日モ早ウ

吉野ノ難不ナ山ノオクヘヒツモラウグ ヤレクイヤナ世ノ中ヤ

いづれしむむるゆの中ふもぬづなよのうれゆれはすこぎん

○ドノヤウナ係イ山ノ中ニスダナラ 世るノウイムガキコエテコエテアラウウ

さくてもうふいふゆの中とくさくさ雪のなちたれぬゆのう

ゆはゆきの中とくさくさ雪のなちたれぬゆのう

わーひきの山のすかかかられまじりき世中ハいろかひもな

○山ノオクヘドコニテナリカレウグ 世ノウイ世中ニ住テ居ルニモナイ

よふゆきとくさくさすきれみうゝぬ雪のゆきをふりしてむ

○世中ノウイムニテキ、ニタモウドコニテナリカ 四ユキグニニ奥山カ隠レウカシラヌ

おち〜ぬ〜ゆきとくさくさ 雪のなちたれぬ

よふゆきとくさくさすきれみうゝぬ雪のゆきをふりしてむ

○世ノ中ノウイムヲラヌモはモセス山中ヘイツテ住ウトモフニハドウモ

ヌステラヌ人カアウテ フレニサツナガレルワイ

山のなちたれぬゆきとくさくさ

此の世解

よふゆきとくさくさすきれみうゝぬ雪のゆきをふりしてむ

○内坊松モ山ニオスマヒチヤガ ツウタイ世ガウイトミテステクニウテ山ハイツ

タ人が山ニスデモ フレテモニゲヤツハリウイ時ニハドチヘイクイギヤシラマセヌ

海草の里ふらみゆりてあきまきでくまのこ
らりりくふよみてあかりき

まことまみあー里のこでいふいづ海草のまきり

○年久しう住キ多クタ此里ヲデ・インダナラ タッサ(海草の里)ヤニ
イヨクアヒテ草ノフカイ野ニナルデカナゴザラウ

かーし よしんまーん

やーがーいづーとて年ハ一サかふたふやハまき

○サイナアは里ガヤニウツタラ ワハ鶴ト曰セウニ泣テ月ヲシテアステゴザラ
ウニモウニコカラ オハハセンテチヨツトモ出ササレイハレウケニカエソイヤアニマ
リデゴザラマズエ かりやち 勢と格 小しりふよまき

影ーらび

あを君さふらの浦ふまーくうづりめとららのらまきりふき

○オハガワツシヲ ナデモナイモノニサツテ ^{ウイニ}アツクニ ^ニソビテワクニハ ^ニ雅
波ノ三津さへホツテニナリミタ 雅は浦・三津・海布・海士とて

けあひあひくむーしーまきりまきりまきりまきり
まきりまきりまきりまきりまきりまきりまきり
まきりまきりまきりまきりまきりまきりまきり
まきりまきりまきりまきりまきりまきりまきり

かふまきりまきりまきりまきりまきりまきりまきり

○ワビソノヤウニシナタニ眼ニラルヤウナナニモ見えエキニはラマアソソニヒラテ

いづれをいふにきこえたるをいふは歌きこえは終はるぞす

○此家の子人住やウチ家がヤガトえバソソテ又も欲キソソ終るるがサレ
まのまふまらうづらふらふのまふまらうづらふ
こゝろをさるゝ
二條

入るる里とらひてこゝろもわらうのみやうらひあまらう

○系ハ入ウラフルイおニテアヌテチヤニツテイヤニ思フテセテキタケレ
此奈良ノおモフルサトノキレバ同ジクフルイおニ思ハレルワライ名チヤワイ

歌きこえ

いづれをいふ

よの沖ハいづれをいふとらひてこゝろもわらうのみやうらひあまらう

○モノト是チイイ世中ハハイヅクドノ家がコゾトニテモツタリガ家デアラウガ

ロニツタリハトイドコデアラウガイキトソタ所ヲサオハ家チヤトニテ居ル

音程のありしは風いきりこぞいへん糸はびつぞぬま

○け相坂山ギウウ嵐がフイテ夜ハ寒イケレ所ヲカヘテドコイタトニモサキ
ガヌドノヤウニアラウヤラシバコバフナギナガモシバウニテコニサカウテ海ニスル

風のうらふらふとらひてこゝろもわらうのみやうらひあまらう

○ドコトニエーナシニ風ヲキアゲテアルク塵チヤウナシテモナイハハテウド
ソノ塵ノヤウニユクサキハドコヘドウナツテユカウヤラシレヌヤウニ思ハレル

はなとらひてこゝろ

伊勢

花をいふとらひてこゝろもわらうのみやうらひあまらう

○アスカリノ園コソハニカルおヤトウサ及ニテ居レソノ花をいふノ園テモ

ナイワカ家モ不仕合ナ時モニテハ 渚ニカハツテユラぬヤワイ
渚ニト云ノハツレアノオアシイサガテニカエ

つくふゆるゆるまきりのせひつこころらるるの日に
あふゆりまうてきてきりる 紀、友、行

あふいづーももゆびをのくえのくらしあどきーかりる

○京ハあつナガラスシフリデモドツテ見ニスレバ けりきキツウモヤウガカツテ
先年ノヤウニモナウテニラヌへホツタヤウニヨサルソニエキ根ト毎夜
暮ヲサテけりモ忘テ面白ウクラシタキ洋ガサキウゴザルワイナ
女もあつらりあつらりしてあつられてほよほり
りーらふ
みちのく

あつらりー神の中へあふけいじとがなわーいのあまららる

○ワシガタミヒ、オノコリオホウ存ジテ別ニシタオニノ袖ノ中ハハイツテ
アナタニトツテアルカ存ジセヌ サウカシテアナタカラゆリニシテカラ
トツトワレハオニヘノバカリ也ラテウカトト波シテタミヒガコニハナイ
ヤウナコノロモテデゴザリマス

宛まゆめおもほそーの判官任んふえさんてゆり
りる所小赤子のさうひそそものこいもみけはるる
ついでふもみゆるる
ゆらりゆらあどき

なまけのよきまじりふゆまのなまけのよきまじり
○五びきん夜はきし竹ノウヘハヤお若モオイテ寒イニ森モセズニオキテ

居テをイ別レ物トラスル^カナ

ハ遣唐使ハ扶桑畧記ハ

寛平六年八月廿一日小^カヲ詔有^ル一^ノ事^ニス^ルなる^ノ事^ナル^ニシ

ル^ニシ

ト^キニ^シテ^ハ...

風^ノナ^リバ^ハ...

○一三

アノ立田山^ノ夜ガ^ステ^ハカラ^ニ君ガ^タタ^カオ^トリ^ニエ^テハ^ハナ^サレ^テア^ラ

ウカサテ^テ...

立田山^ノノ^チ...

ヨリ^{...}

十枚^{...}

...

...

...

...

○一三

ハ立田山^ニ誰^{...}

...

...

きりぎりき 今におふー ちうけねば 幸い産よ
 けむじきも なるうつきこ ぬきさし 秋はあつた
 神をかし みるにまよふ せんくし かつらじき
 ときじん ころねるまを ちるまき くのむつふ
 ありよりり ころねるまを ころねる かのびん
 ヨクニミヤカレ かんやーく ころねる ぶらぬくし
 やよりねが なるの持れ ぬきく ちふまの浦か
 かーく なるのちるま ちるまの ちるまの
 ころねる ころねるま ちるまの ちるまの
 ころねる ころねるま ちるまの ちるまの

ころねるま かんやーく ころねるま ころねるま

やよきまづ 今のせはさふ かのまき ちるまの
 ころねるま ころねるま ころねるま ころねるま
 ころねるま ころねるま ころねるま ころねるま
 ころねるま ころねるま ころねるま ころねるま

○カヤカナアリがタイ君の世ニアウのモアルモノヲ 今デハタビヒタスラ
 ウツモレテ居ルトツツカリ思フターヨアハウナーカナ

ころねるま ころねるま ころねるま

げし海をこぼれたりたのこもなれどきこゝの海はどよよと

秋の夜

丸の内、躬恒

むしむしきこもるもふあひのきりぎりすのせーこよよハ

○ムウゴトモ一ダ塔でデエムハヌノニハヤ夜がアケル極子チヤ 秋ノ夜ノ名イ
ト云ハドコガモイグ

信正遍昭

秋のせふもよきなせも女所をあるかーかまーおも部くき

○秋ノせニアノヤウニ女は花が大ゼイチヤラクラト云テ立テ居ガアノヤカ
マシヤアノヤウニ花ヤカナモ一サカリノワヅカノるノチヤ オツケニホテアヌサ
シイ物チルラバシラスニア、

よみ人あしげ

秋のねばせふたりくもみまーいつものうはすこゝろさへ

○秋ニチバヤヘニシヤラツイテ居ル女を花ヲ 赤テスル人ハ 誰デモツメツテ
タムルツメツテ又者チイ つむと、花と摘をうみたり。

秋のちのねてくもせバ女が赤花れまごのそんくくささる

○赤がハレタリクモツリスバ 女が花ノウウツシイ赤がサエタリカクシリスル
結句かこのかゝらばほてよむし。 飯村抄は、かふまゝ。

どとらんてきしむとまねがめをうたり、いささめの名よとてはれ

○女が赤ヲ花チヤト思ラテ折ラハスバ 女即ト云名ハヒヨチチ名デコソアレ
ドウモ女郎ニ手ヲカケテ折ラハスミイ 飯村抄は、かふまゝ。

着菜ハ准デモツムおぢヤウサチツツレテスタイトハツメレテスタイトネーヤブエ
忌菜といふを考ふる人のあきをばよこふるふらしにさへいさし

おららば

よめんをいふ

思ふもねらうとぬれぬまかきしかけらぬとあつめじとありんか

○ワシガ思フ人ハキツイ性ワルナレバ方へカリアルイテテウト事ノ
衆ノドコノ山ハモカシヨ山ハモカシヌアハナイヤウナモテアラウト思ハ
ルヒナガラモヤツリウツクシイ心持ガスレ

卒ノ貞文

まのせよあつめぬまのしよあつめぬまのしよあつめぬまのしよあつめぬ

○一三 オレハ女ヲ思フ思ヒガケケテ 田 ホロクトサ泣ノス

よらひまのせよあつめぬまのしよあつめぬまのしよあつめぬまのしよあつめぬ
しよあつめぬまのしよあつめぬまのしよあつめぬまのしよあつめぬ

まのしよあつめぬ

秋のせよあつめぬまのしよあつめぬまのしよあつめぬまのしよあつめぬ

○毎年秋ノ野テ妻ノアリモセヌ蘇ガあつめぬカヨクトサナガアルハ

ドウシターチヤヅ 妻ニアフタヲバコソ 恋ノカヒガアルトハ鳴ウナレ 妻ノナイニ

恋ノカヒコト鳴カハズナイニ けあト向のいふまのしよあつめぬ

まのしよあつめぬし 又泡のまのしよあつめぬまのしよあつめぬ

みはれ

樽のねよあつめぬまのしよあつめぬまのしよあつめぬまのしよあつめぬ

在系ゆゑか

よの中いふく〜とあや〜をあらのふ恨りゆれを

○入ゴトニ世ノ中ハウイおぢヤクトムテ恨ミルサウ教万人ノ人ニ恨ミラ

ルノナレバ世中及ハサヅヤノイワクニ思ウデアラウ

よみ人々

ほそきておれ〜づ〜ふ老ゆ〜ひ平のちも〜を〜

○オレハア何ヲシテハヤウニ年ヨツターヤラ 何ニモセズニ年バツカリヨツテ

身ニツモツタ^{ナシ}齡ノ思フトコロガサハツカシイ

たきくを

おはま〜つら〜だ〜や〜や〜は〜し〜つ〜ひ〜お〜い〜か〜き〜と〜き〜

○トテモ立オナドモエセズバ此オハモウ無 相ニシテ居ルチヤガセメテハ

心バカリナリ凡 大切ニ持テステラシヤウニナルマイブツレテ^{ツルハ}シウバドノ

ヤウニナルブトストケルヤウニサ

ちちや

あ〜ものとのふ〜がオハ〜のぬ〜で印をき〜ぬあ〜ぞ〜り〜

○あオハ此ヤウニ年ヨツテトモカモ大ニチガウタケレ凡ハシララヌおテサ

ヤツハリ若イ時カヲヌワイ ちふ〜き〜ぬ〜の〜の〜

影。。

よみ人々

うたのむ〜てれあのみ〜れ〜ば〜や〜と〜ま〜お〜の〜の〜の〜の〜

○梅ノ花ノ咲テチワテニウツクハナル実ハ酸イおぢヤガオレハも梅ノ実チ

ヤヤラテ人か泣^のテモオレバスキモヤヤト云 寝^スきと好色^トとゆて
はを中一がふおん一由一とて日さるのわひか
まけぶらうとて心^ハちとてむせはるる

みづ子

うらふまきうらむまきとて門のふれひあふまきうらむ

○様ヨもねニ難^カサウニアリヌナイ 今日けをりニ布クモ法皇様
ノ伊幸ガミテは山ノカウニテアヒカヒガアヒテハナイカアリカクイ日チヤ
グヨ今日ハ

新^カるべ

よみ人あしど

そといふこのおとんまよりとてうらやとてあふまきあまう

○此衣ハ世ヲイトウテ一所不住ノ傍ノイツ^キチモドコナリトユキガリニホノカ
ケ立寄テハ常ナドモトカズツイニ傳テ赤^シ五倍子^シ漆ノ麻ノ衣テゴザル
うらやとハ神代紀ニ全^ク剥^キとある全^ク日^ノドくてそのまをわて
をりまらねといふは同じうつじきふ^ツ眠^ルハわいび又おすふ五倍
子^シうらやとてあふまきうらやとてあふまきうらやとて
全^ク剥^キと五倍子^シふりひけたるをてしと。能^ク得^ルハまらとて

古今和歌集卷第二十を撰

大歌所伊歌

おかななるひのこ

高きやうきぎの中心あひなせりちと海門のまねぢやけさ
 けり、オホサキ海門のけべのきぎのまのぢオホサキのまのぢオホサキのまのぢ
 みまもや之年のまのぢオホサキのまのぢオホサキのまのぢオホサキのまのぢ
 みのまのぢオホサキのまのぢオホサキのまのぢオホサキのまのぢオホサキのまのぢ
 君がせきめぎのまのぢオホサキのまのぢオホサキのまのぢオホサキのまのぢオホサキのまのぢ
 へまのまのぢオホサキのまのぢオホサキのまのぢオホサキのまのぢオホサキのまのぢ
 だまのまのぢオホサキのまのぢオホサキのまのぢオホサキのまのぢオホサキのまのぢ

東歌

あまの今上のゆべのりやまのり

みづらのくし

あふらぶ小おはらわたりあけぬもまどばやらど備てばまど
 ○アノアラク川へ考がスウツト立テ夜がアタリハ 君ラバヤルニツイテセテ又見エル
 中テ持ッアヒガドウモナラヌ オホサキ 初ニウハテ花のめまききこのまのぢ
 中テ持ッアヒガドウモナラヌ オホサキ 初ニウハテ花のめまききこのまのぢ
 中テ持ッアヒガドウモナラヌ オホサキ 初ニウハテ花のめまききこのまのぢ
 中テ持ッアヒガドウモナラヌ オホサキ 初ニウハテ花のめまききこのまのぢ

○奥州ニドモカニモ面白イ取オホクアドモ 中テモけ陸ガニノ浦ヲ

アレ網手デ船ヲ引テユクアノケレキガドウモイヘタ也デナイ オモ
シロイコトデヤワデ

ミダセシ成みやと小やアとシ陸がまのまが此の時のもをき

○コチノ人ヲ京ヘヤツテ 留守デワ イワモドラルニヤイト 三四

待テ居レバサテモモシイ

をがらぎれ女ののー海の人をぶがの海をふいぎしてま

○アノ悪侍ノニツノ小侍ガ人ナラ 赤ノヒヤゲニイガ赤イトニテワテイ

ナウモヲをくらふ此のものををうせまのそとて悪侍より地を

みまうひひうさとまうせまのあけ下をみふまうわく

○オササヒ侍元 ハハサソレハハサトヤレ上サウシヤレ ハハサハハサカヲオチルオハケシ

カラヌモノデ 雨ヨリモキツウヌレスソエ

ゆがも川の不きぶくぶらひまぶひれつらあをわいびおの目こをかり

○上 イヤデハナイガ 月月中ハドウモナラヌ

のちねんぐんぐんひのぐもあきぶくをうもあきをう

あきとあきしてわいーあきとあきしてバ赤れまの山はもくえんむ

○ドウ云ーガアラフオトニテモ オマヘヲオイトワハ外へ心ヲウラスコトバナイモシラン

ナ心ヲワシガ持ッダラ アノ赤ノ松山ノウヘラ浪ガユルデアラウ フチヂハナ

イナヂヤサテ 赤の松山とらへるはをえんうの赤の松山をえし

さかしく

小よあきの破らちねんぐんをわつむあきじぬいさねけけをえん

○道ヲシツテ居ルナラ 住ノ江ノ家ニエテアルトイフ事ヲワスル意ナラ
ツニニテモユカウ 物之多岐の多岐ありてかくも
ふまじきふゆいん又ありていふ事をも 今ハたふあり
を又やこれよみくらふありていふ事をも 今ハたふあり
右ありさすていふ事をも 今ハたふあり

を鏡六のまじけをいふ

明治八年十二月廿日版權免許

著述者

度會縣平民

本居宣長

第九大區飯高郡松
坂魚町五拾九番地

愛知縣平民

片野東四郎

第壹大區四小區玉屋
町三町目拾五番地

藏板人

